

メインクラス		シーフ	Lv.1:		レベル	1
サポートクラス		アルケミスト	Lv.1:	アルケミスト	性別	
称号クラス					年齢	
種族		ドゥアン			境遇	師匠
出自 (効果)	一般人				目標	名誉

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運		
基本値	13	9	8	7	7	9	9	HP	35
ボーナス	4	3	2	2	2	3	3	MP	33
クラス修正	0	2	1	1	2	0	0		
他修正								フェイト	5
能力値	4	5	3	3	4	3	3		

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	ハンドグレナード	-	0	6	0	0	0	0	0
左手									
頭部	ハット					1			
胸部	クロスアーマー					3			
補助	バックラー					2			-1
装身具	研究道具								
能力値			5	0	3	0	3	7	9
スキル	ストライクスロー			4					
その他	研究道具			1					
総計(右)			5	11	3	6	3	7	8
総計(左)			5	5					
総計(両)									
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数	所持品	
トラップ探知	4			4	+ 3	クラブ	
トラップ解除	5			5	+ 2	冒険者セット	
危険感知	4			4	+ 2	バックパック	
エネミー識別	3			3	+ 2		
アイテム鑑定	3			3	+ 2		
魔術判定					+		
呪歌判定					+		
錬金術判定					+		
現在重量：	6						
最大重量：	18	所持金： 805				預金・借金：	

[illegible]

異世界のスポーツ『野球』。

ジィにそのことを教えてくれた異世界からの来訪者は懐かしむように教えてくれた。

「バットとボールを使う」「チームで競い合う」「攻守を交代しつつ点数を取り合う」……。

実際にやったことも見たこともないが、それが来訪者にとって熱中するものであったのは表情から見て取れた。

「やってみたい」。幼いジィにそう思わせるには十分な理由であった。

だが、又聞きである野球のルールをジィは曲解した。

例えば「ボールを投げてスタートする」というルールは、スタートを切る以上攻め側の行動と考えた。

ならば点数とは？ 当然ダウンしたメンバーの数だ。でなければ控えメンバーが存在する理由が薄い。

身を守る手段がバットというのも興味深い。本来武器として扱うものを防衛に使う。さすが異世界のスポーツ。普通では考えられない。

おお。野球とはなんとエキセントリックなスポーツなのだろう。来訪者が熱中するのも無理はない。

このスポーツをエリンディル中に広めなくてはならない。ジィは強く決意した。

いずれ大陸中を席卷する「エリンディル野球」の始まりであった。

エリンディル野球ルール

- ・相手にボールを当ててダウンさせると1点。
- ・バットで打ち返すと1ストライク。
- ・3ストライクで1アウト。
- ・打ち返して相手をダウンさせると1アウト。
- ・3アウトで攻守交代。
- ・これを9回繰り返す。